

# 植物防疫情報第1号

平成 31 年 4 月 5 日  
岡山県植物防疫協会  
岡山県病害虫防除所

## 今がモモせん孔細菌病の防除適期です！

岡山県病害虫防除所の調査によると、例年では確認されることがほとんどないモモせん孔細菌病の春型枝病斑（スプリングキャンカー）が、本年は3月28日から確認されています。昨年は全県的に本病が多発傾向で、9月が多雨であったため、春型枝病斑の発生量も多くなることが懸念されます。落花後から薬剤散布を開始し、その後も約10日間隔の定期的な防除を徹底しましょう。

### 1. 防除対策及び防除上の参考事項

- (1) 本病の発生は前年の伝染源量が大きく影響するため、常発地や昨年発病を認めた圃場では本年も多発する恐れがあります。
- (2) 本病原菌は、春頃の気温の上昇とともに形成される春型枝病斑（図1、紫褐色のへこみを生じ、芽枯れを伴うことが多い）から雨滴及び風で飛散、伝染します。発病枝は、葉や果実への重要な伝染源となりますので、見つけ次第、除去・処分しましょう。
- (3) 本病原菌は葉や果実の表面（気孔など）や傷口から侵入します（図2）。風当たりの強い圃場では防風ネット等で防風対策し、病原菌の飛散を防ぎましょう。
- (4) 殺菌剤による防除は予防散布が基本です。多発してからは効果が劣るので、早期の防除を心がけましょう。ただし、予防効果の高いストレプトマイシンを含む剤の使用時期は「収穫60日前まで」、総使用回数は「2回以内」です。極早生種や早生種に使用する場合は使用時期に注意して散布が遅れないようにしましょう。
- (5) 果実の感染防止のため、早めに袋かけを行いましょ。袋かけは、薬剤散布後速やかに行いましょう。

### 【主なモモせん孔細菌病の防除薬剤】

(H31. 4. 1 現在)

薬剤名	農薬使用基準			成分名	FRACコード 注3)
	希釈倍数	時期	回数		
ストレプトマイシンを含む剤					
ストマイ液剤20	1,000～2,000倍	収穫60日前まで	総使用回数 2回以内	ストレプトマイシン	25
アグレプト液剤、同水和剤	1,000～2,000倍			ストレプトマイシン	25
ヒトマイシン液剤S	250～500倍			ストレプトマイシン	25
マイシン20水和剤	1,000～2,000倍			ストレプトマイシン	25
アグリマイシン-100 <sup>注1)</sup>	1,500倍			オキシテトラサイクリン・ストレプトマイシン	41・25
スターナ水和剤	1,000倍	収穫7日前まで	3回以内	オキシソリニック酸	31
バリダシン液剤 5	500倍	収穫7日前まで	4回以内	バリダマイシン	U18
マイコシールド <sup>注1)</sup>	1,500～3,000倍	収穫21日前まで	5回以内	オキシテトラサイクリン	41
マスタピース水和剤 <sup>注2)</sup>	1,000～2,000倍	収穫前日まで	—	シュードモナス ロデシア	未

注1) アグリマイシン-100とマイコシールドは同じ有効成分（オキシテトラサイクリン）を含む。

オキシテトラサイクリンの総使用回数（5回以内）に注意して散布する。

注2) マスタピース水和剤は微生物殺菌剤であるため単用が望ましい。

注3) FRAC(<https://www.jcpa.or.jp/labo/jfrac/>)による農薬有効成分の作用機構の分類。

同一のFRACコードの薬剤については、耐性菌の発達を回避するため、連用を避ける。



図1 春型枝病斑（スプリングキャンカー）



図2 せん孔細菌病の発病葉及び幼果の初期症状

農薬の使用に当たっては農薬使用基準を厳守するとともに、ドリフトに注意するなど、安全・適正に使用するようお願いします。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/> です。

